

平成 25 年 11 月 7 日

各 位

雪印メグミルク株式会社  
代表取締役社長 中野吉晴

## 平成 26 年 3 月期第 2 四半期 決算短信発表にあたり

わが国経済は、輸出環境の好転、雇用情勢の改善や設備投資の持ち直しなど景気回復の動きが見られました。

個人消費は一部に持ち直しの動きが見られたものの、食品業界においては、依然として消費者の低価格志向が継続しております。

このような経営環境の中、「雪印メグミルクグループ中期経営計画（平成 21 年度～平成 26 年度）」に掲げた「乳飲料」「ヨーグルト」「デザート」「ナチュラルチーズ」の 4 つの 카테고리における「カテゴリ No.1 戦略」を強力に推進するため、新商品の拡売および商品ブランドの強化に取り組みました。

その結果、上期の連結売上高は前期を上回り、2,756 億円（前期比 103.5%）となりました。しかしながら、激化する市場競争の中で、宣伝促進費が増加し、連結営業利益は 68 億円（前期比 80.0%）となり、増収減益となりました。

厳しい市場環境に加え、下期からは原材料価格の高騰や円安の影響などにより、収益が更に圧迫されることが予想されますが、価格改定等、既に対応策に取り組んでおります。今後も外部環境の変化に対し、迅速に対応してまいります。上期のマイナスを挽回するまでには至らず、通期連結業績予想の営業利益を 125 億円、経常利益を 125 億円、当期純利益を 70 億円に修正いたします。

一方、将来に向けた取組みを着実に進捗させております。

戦略設備投資については、海老名工場におけるチルド飲料生産機能の集約を進めており、平成 26 年 3 月に稼働開始を予定しております。また、プロセスチーズとマーガリンの生産物流機能を集約する阿見工場は、平成 26 年度下期からの本格稼働に向けて、平成 25 年 12 月に物流棟が稼働し、平成 26 年 3 月より順次生産を開始していく予定であります。これらの生産物流体制整備を順調に進行させ、収益構造改革を図ってまいります。

足元の環境変化は、そのスピードと厳しさを増し、市場競争は更に激しくな  
ってきますが、迅速に対応すべく、来年度の施策見直しを含めて次期中期経営  
計画の検討に着手しております。

引き続き、役職員一同、コンプライアンスと品質管理の徹底を図り、CSR  
経営を積極的に推進してまいります。

今後とも、これまでと変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し  
上げます。

以 上